

学 会 記 事

◎第9回理事会(昭.34.2.19)出席者:篠原,本間副会長,高野,藤村,渡辺,比田,西島,小野の各理事,深谷,徳平副主任。議事:1)1月中の行事その他の報告,2)第2回世界地震工学会議について耐震工学委員会の沼田委員長,岡本,田原各委員から準備状況報告ならびに後援会計書を説明了解を求めた,3)国際大ダム会議日本国内委員会より依頼のダム用語分科会の専門分科委員に当学会より国分正胤氏を推薦に決定,4)第6集論文抄録委員会の委員長に左合正雄氏を委嘱に決定,5)土木振興対策委員会で協議された工務士法案について試案が出てから検討する,土木振興対策の話題に上つた意見は各部で考慮する,委員長を内海清温氏に交代,河口委員を国富忠寛氏に交代委嘱を了承,6)夏期講習会の課題に「トンネルおよび掘削工法」を取り上げ研究連絡部で企画を樹てること,7)昭和34年度予算案は内容を検討し次回で決定すること,8)第5期学術会議会員選挙有資格者で前回登録しなかつた本会会員に対しては要点を学会誌登載またはその他の方法で注意を喚起するようにすること,9)土木賞に関する制度改正について総務部で起案すること,10)1月会員入退会を承認。

◎各種委員会

1. 第9回会誌編集委員会(昭.34.2.20)出席者:奥村委員長代理,大西,海保,南部,岡崎(代島山),樋口(代矢島),伊東,尾崎,諫山(代佐藤),後藤(東北)各委員,深谷幹事。議事:1)投稿原稿の審査報告および新規受付原稿の審査委員の決定,2)依頼原稿の状況,3)新規講座,および新規依頼原稿について,4)交通シンポジウムについて,5)44巻4号登載原稿を次のとおり予定した。

田原保二・八十島義之助:交通シンポジウムの企画および序論,鈴木雅次・川北米良:土木計画における産業連関分析とLinear Programmingの適用,伊藤令二:御母衣ダムの土質材料について,野口 功:プレストレストコンクリート桁の疲労に関する研究について,水野高明:1958年度国際材料構造試験所連合会議(LILEM)報告。

2. 第9回会誌編集小委員会(昭.34.2.10)出席者:田原委員長,武部,後藤(東北)の両委員,深谷幹事。議事:1)44巻3号会誌編集について最終的打合わせを行つた。

3. 会誌・論文集合同委員会(昭.34.2.10)出席者:国分編集部長。(会誌)田原委員長,海保,尾形の両委員,深谷幹事。(論文集)友永委員長,田島,粟津,大島,後藤,三木,伊東,嶋,高田,竹内,松田,大地の各委員,徳平幹事。議事:土木賞候補論文推薦理由書文案につき審議した。会誌・論文集合同委員会(昭.34.2.20)出席者:国分編集部長。(会誌)田原委員長,海保,小西(関西)の各委員,深谷幹事。(論文集)友永委員長,高田,田島,嶋,三木,伊東の各委員,徳平幹事。

議事:土木賞候補論文推薦理由書文案について審議。編集部幹部土木賞推薦打合せ(昭.34.2.23)出席者:国分編集部長,田原,友永両編集委員長,深谷,徳平両編集幹事。議事:土木賞候補論文推薦理由書文案につき最終的に協議した。

4. 土木振興対策委員会(昭.34.2.3)出席者:平山委員長,内海,金森,金子,黒田,比企,町田,柳沢,山本,吉田,松野,千秋,高野の各委員。議事:1)工務士法(仮称)案を立案する必要ありと決定し,制定趣意書を起草することとなつた,2)土木振興対策についての意見を交換し委員会の進め方を話し合つた,3)委員長を内海委員に交代,水道協会河口氏病気退任のため現理事長国富忠寛氏に交代をお願いすること。

5. 第3回コンクリート常置委員会(昭.34.2.3)出席者:国分副委員長,樋口,村田,藤井,岩間,堀,野口,西沢,土岐,小林,多田,赤塚,山村,塚山,山崎の各委員。議事:国分副委員長,樋口委員より無筋コンクリート標準示方書解説38条から76条までの説明があり,各条を審議した。第4回コンクリート常置委員会(昭.34.2.12)出席者:国分副委員長,樋口,山村,堀,藤井,西沢,永倉,岩間,松本,土岐,小林,塚山,山崎の各委員。議事:無筋コンクリート標準示方書解説77条から107条までおよびショットクリート施工指針,土木学会基準について国分副委員長,樋口委員より説明があり,逐条審議を行つた。第5回コンクリート常置委員会(昭.34.2.23)出席者:国分副委員長,深谷,村田,藤井,多田,西沢,土岐,塚山,松本,小林,岩間,山村,赤塚,山崎の各委員。議事:鉄筋コンクリート標準示方書解説1条~117条およびその解説について,国分副委員長,深谷委員より内容および改訂の理由について説明があり,逐条討議した。

6. 第9回文献調査委員会(昭.34.2.5)出席者:樋口委員長,福沢,岩間,佐藤,日野,片山,伊能,新谷の各委員,矢島幹事,御糺氏(科学技術情報センター)。議事:1)3月登載の文献抄録および文献目録の提出,2)目録カードの整理方法について協議,3)次回委員会を3月5日に予定。

7. 交通シンポジウム(昭.34.2.13)出席者:田原委員長,東,田中,奥村,八十島,奥田(代三宅),竹内の各氏,深谷幹事。議事:今後の交通シンポジウムの進め方について具体的に協議した。

8. 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会(昭.34.2.13)出席者:田中委員長,青木,沼田,成瀬,平井,奥村,田中,友永,埴田(代上野),申根,小西,村上(代沓掛),中村,松崎の各委員。西村,大宮,安浪,菊池,田島,阿部,伊藤,安藤の各幹事。議事:1)平井委員の長大橋の風洞実験についての研究発表,2)中村委員の防錆法についての研究発表,3)高張力鋼鉄道橋について各条項の審議を行つた。

9. 第1回論文抄録委員会(昭.34.2.26)出席者:本間副会長,比田理事,左合委員長,村上,渡辺,嶋,多谷,小林,明石(代田中),南部(代横戸),原田,色

部、松田、徳平、宮脇、久田（代加川）、鶴田（代伊藤）、伊吹山、中村、田島、西脇、松原、尾崎（代高橋）、諫山（代足立）、松尾（代磯中）の各推薦委員、浅川、塙、島田の各推薦幹事。議事：1）各項目の担当委員の確認を求め、未定の委員は照会して確認を求めると、2）第一に図書、雑誌各一覧表を担当委員から3月20日までに提出してもらい、次回委員会までに一覧表をつくること、参考として第5集編集のときの一覧表を各委員に送り、これをもととして加除をして提出を求めようとする、3）第5集の総目次を各委員に送ること、4）第2回委員会は3月26日として論文の拾い出し、ABCの分類等の作業について協議すること。

10. ハンドブック都市計画分科会（昭.34.2.19）

◎関係公共団体よりの連絡

1. 日本原子力学会は2月14日学士会館において創立総会を開催した。
2. 粘土研究会は33年12月創立総会を開催し発足した。
3. 国際建設技術協会では2月18日「建設省において設計業務等を委託する場合の契約方式に関する説明会」を開催した。
4. 学術会議溶接研究連絡委員会（34.2.10、成瀬委員出席）においては日本溶接会議の取扱いについて協議した。

提案議題

1. 日本溶接会議を解消し、15の分科会を関係学協会の希望により分散担当する。
2. 日本溶接会議の組織を溶接学会の中に吸収する。
3. 財団法人として会員制度を取り会費により運営する。組織は現在どおりとする。

支 部 だ よ り

1. 中部支部

(1) 幹事会 A) 第9回幹事会（昭.33.12.11）

出席者：渡辺幹事長ほか幹事。議事：1）協議事項 a) 1月講演会について、b) 2月見学会について、c) 3月講習会について。B) 第10回幹事会（昭.34.1.12）出席者：渡辺幹事長ほか幹事。議事：1）協議事項 a) 1月講演会について、b) 2月見学会について、c) 3月講習会について、d) 次期支部長の推薦について、e) その他。C) 第11回幹事会（昭.34.2.10）出席者

：渡辺幹事長ほか幹事。議事：1）報告事項、a) 1月講演会について、b) 名古屋工大学生見学会について、c) 2月見学会について、d) 3月講習会について、e) 支部長懇談会報告。2）協議事項 a) 次期支部長推薦について、b) 3月役員会について、c) 34年度支部事業計画について、d) 34年度支部予算について、e) 学術会議について。

(2) 役員会 第3回役員会（昭.33.12.11）

(3) 講演会（昭.33.1.30、10～16時）会場：名交会館

演題および講師

欧州の諸港湾と日本港湾の諸問題について

名古屋港管理組合技術部工務課長 粟田亀造氏
欧米における都市交通事情について

名古屋市交通局長 石田二郎氏
アメリカの道路事情について

愛知県土木部道路課長 田所文男氏

(4) 見学会 A) 2月見学会（昭.34.2.21）場所：

名古屋市水道局大治浄水場拡張工事、参加者：45名。

B) 岐阜大学学生見学会（昭.33.12.5）場所：建設省多

治見工事事務所道路工事現場および愛知用水曲り池工事

現場、参加者：岐阜大学学生50名。C) 名古屋工業大

学学生見学会（昭.34.1.17）場所：名古屋市水道局堀窟

下水処理および大治浄水場、参加者：名工大学生60名。

(5) 役員の移動

新任

評議員 国鉄岐阜工務局長 上原要三郎

幹事 KK間組名古屋支店 大本 正彦

辞任

評議員 国鉄本社建設局長 小田 仁

幹事 KK間組名古屋支店 渡辺 武雄

2. 関西支部

(1) 第3回幹事会（昭.34.2.2）大阪建設会館にて、

出席者：石原支部長、近藤幹事長、石田、伊藤、藤沢、

松尾、八木の各幹事、土木賞委員会支部代表委員 小西

一郎、田中 清。

(2) 見学会（昭.34.2.20）見学先：1）京都大学防

災研究所宇治川水理実験場、2）日本道路公団名神高速

道路試験所、3）日本道路公団名神高速道路山科工区工

事現場、4）宝酒造KK伏見工場、参加者：120名。

(3) 支部創立三十週年記念座談会記事の配布 昨年

9月15日実施した関西支部創立三十周年記念座談会記

事をこのたび3000部印刷して支部会員その他の関係方

面へ配布した。

会 員 入 退 会 に つ い て（昭.34.2.28 現在）

| | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------------|
| 1. 入 会 | 121名（特3 3, 正57, 学61） | 3. 退 会 | 28名（特2 1, 特3 1, 正26） |
| 2. 復 活 | 3名（正2, 学1） | 4. 転 格 | 15名（准より正へ15） |

会 員 現 在 数（昭.34.2.28 現在）

| 名誉員 | 賛助員 | 特1A | 特1B | 特1C | 特2級 | 特3級 | 正員 | 准員 | 学生員 | 増加 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|----|--------|
| 26 | 30 | 17 | 12 | 69 | 109 | 97 | 9 017 | 4 213 | 1 138 | 96 | 14 728 |

下水道 鶴見一之著 日本水道協会 刊

大正初期といえ、もう 40 年ほど前になるが、当時としては技術書も数えるほどであつたろうが、鶴見先生が新知識であつた下水道なる著書が出版されたことは実に先覚的業績で、驚異に値することであつた。


鶴見先生は東北大学工学部の前身である仙台高等工業学校に永らく教授として、はたまた校長として衛生工学について講義され、その間、数多くの研究もされたが、土木学会に発表された「沈降速度の理論および実験」について土木学会賞を得られている上下水道界の権威であり、大先輩である。下水道事業が急速に伸展するときにあつて、先生は旧著に最近の研究をつけ加え、新しい資料を追加される等、全面的に稿を改

めて水道協会より今回「下水道」を出版された。

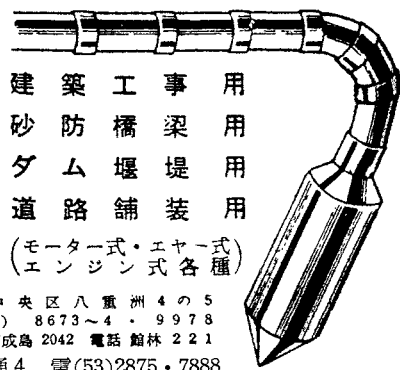
全編 11 章よりなり、500 ページにおよぶ大著となつた。第 1 章の「完全下水道築設の必要」は豊富な統計資料とあいまつて、環境衛生上から水洗便所の取付けうる完全な下水道の必要性を強調し、第 2 章「下水道方式」、第 3 章「設計」において汚水、雨水の算定方法、下水管キョの断面決定、材料の選択、強度等について例をあげて詳述し、第 4 章「下水キョ施工および各部の構造」において、基礎、支保工、管の接合方法、マンホールそれらの付属設備を述べ、第 5 章「下水キョの清掃」、第 6 章「私設下水道」で、掃除と家屋内外の排水設備に説明を加え、第

7 章「下水の処分」および、第 8 章工業廃水の処分」において生物化学的作用、放流水の水質とその影響、下水の処理法について詳述し、最近の公共水の保全について問題解決の方法を示している。第 9 章「保留法および小規模下水工」、第 10 章「塵芥の処分」においてし尿浄化槽、し尿消化槽、水泳プールの浄化方法、各都市の共通のなやみである塵芥とし尿の処分法をコンポストをふくめて述べ、最後に第 11 章「工費ならびに運搬費」で、下水道の築設費を国内外における実績を示し、付録として、道路地下埋設物、下水処理の実例、関係法規が適切な図表とともに掲載されている。

著者：名誉員・工博・宮城県顧問
A判 496 ページ、上製箱入、定価：800 円、昭. 34. 1. 15. 発行。



コンクリート
パイプ



三笠産業株式会社

西部地区総発売元 三笠建設機械株式会社 大阪市西区立売堀北通 4 電(53)2875・7888

本社 東京都中央区八重洲 4 の 5
営業所 TEL (28) 8673~4・9978
工場 群馬県館林市成島 2042 電話 館林 221

建築工事用
砂防橋梁用
ダム堰堤用
道路舗装用

(モーター式・エヤー式
エンジン式各種)

| | | | | |
|----|---------|----------------|--------------------|------|
| 正員 | 長谷 脩君 | 大日本土木KK東京支店勤務 | 昭和 33 年 8 月 22 日逝去 | 74 才 |
| 正員 | 瀬戸 政章君 | 世紀建設工業KK社長 | 昭和 33 年 2 月 27 日逝去 | 51 才 |
| 正員 | 後藤 宇太郎君 | KK東京軌道研究所取締役会長 | 昭和 34 年 1 月 1 日逝去 | 72 才 |
| 正員 | 麻生 一二三君 | 島根県津和野土木出張所長 | 昭和 33 年 3 月 10 日逝去 | 55 才 |
| 正員 | 篠原 節郎君 | 北海道建設KK取締役会長 | 昭和 34 年 2 月 3 日逝去 | 66 才 |
| 正員 | 衣斐 清香君 | 東急不動産KK顧問 | 昭和 34 年 2 月 5 日逝去 | 76 才 |
| 正員 | 石川 高明君 | 国鉄西部支社工事課 | 昭和 34 年 2 月 6 日逝去 | 42 才 |

昭和 34 年 3 月 10 日印刷 印刷者 大沼正吉
昭和 34 年 3 月 15 日発行 印刷所 株式会社技報堂 東京都港区赤坂溜池 5 番地
編集者 国分正胤 発行所 社団法人土木学会 東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
定価 100 円 振替 東京 16828 番 電話 (35) 5130・5138・5139 番



D.N.I.

世界8ヶ国特許 防錆秘法

ズボイド

大日本塗料

世界的発明といわれる亜酸化鉛粉の強大な防錆力を利用した最高の特許防錆塗料で、防錆力・密着力は勿論防錆塗料としてのあらゆる特長をもち、世界の鉄材塗料として同種品を遙かに凌駕し、絶大な御好評を得て居ます。(御一報次第カタログ進呈)

本社 大阪市此花区西野下之町38
支店営業所 東京、札幌、仙台、名古屋、神戸、広島、福岡
工場 大阪、横浜、茅ヶ崎、平塚、大船

鉄骨 橋梁 水門 鉄管



三菱造船株式会社

本社 東京都千代田区丸の内2の4 (三菱本館)
電話 東京(28) 3111・5111・0331
工場 長崎・下関・広島

